

(別紙報告様式)

鳥獣被害防止総合対策事業の評価報告(令和2年度報告)

市町名: 福山市

1 事業評価報告

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始 時期	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価		
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
福山市鳥獣被害 対策協議会	福山市	2017年度	イノシシ	(推進事業) ドッグマーカー デジタル登録局無線機	1基 12機	福山市鳥獣被害 対策協議会	2017. 7. 1	100	イノシシによる農作物被害及び 市街地への出没が多発するた め、地域住民からの依頼等に基づ き銃器による捕獲活動を定期的 に実施しているが、ドッグマー カー及び無線機を導入すること で捕獲活動の効率化を図り、短 期間での有害鳥獣の捕獲へと繋 げている。	イノシシ サル	6,310千円	8,182千円	▲84%	イノシシ	377a	759a	-	銃器を使用したの捕獲活動は短期的 な駆除のみならず、イノシシの追 払い効果にも繋がっている。
		2018年度	イノシシ	デジタル登録局無線機	20機		2017. 7. 1	100			110千円	128千円	14%	サル	4a	15a	0%	
		2019年度	イノシシ	デジタル登録局無線機	12機		2018. 5. 25	100										
	2017年度	イノシシ シカ サル	(緊急捕獲)  有害捕獲(対象鳥獣の個 体数を低減するため、緊 急的な捕獲活動を実施)	691頭 5頭 2頭	福山市鳥獣被害 対策協議会				農作物に危害を加える有害鳥獣 を駆除することを目的として、イ ノシシ・シカ・サルの捕獲を実施し たことにより、野生動物の個体数 調整が図られ、農作物被害の防 止に一定の効果を得ることがで きた。								有害鳥獣捕獲班による捕獲頭数は 年々増加傾向にあり、継続した捕獲 活動により更なる個体数の調整が必要 である。	
	2018年度	イノシシ シカ サル		771頭 2頭 0頭														
	2019年度	イノシシ シカ サル		904頭 2頭 1頭														

注1)被害金額及び被害面積の目標欄については、対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載してください。  
注2)達成率の算出方法については「実績値(=基準年値-実績値)÷目標値(=基準年値-目標値)」であるとして算出してください。

2 第三者の意見

コメント:東部農林水産事務所 林務課 自然保護係長 多賀谷篤  
導入されたドッグマーカーやデジタル登録局無線機の利用率・稼働率が高く、イノシシの捕獲頭数が年々増加しているのは、鳥獣被害防止対策として一定の効果を発揮していると判断できます。しかしながら、被害金額・面積ともに、実績値が目標値を上回っていることから、引き続き対策を期待します。

注)第三者の名前・所属・役職等を記載のこと。